公開講座

人生は楽しいもの？ 苦しいもの？

―お釈迦様のことばに学ぶ―

幼児教育学科　准教授　香 月　拓

講座要項掲載内容

「『人生楽ありゃ苦もあるさ』という歌があるように、私たちの人生には楽と苦の両方があり、苦しさがあってはじめて楽しさを感じることができる」と、このように考えている人が多いのではないでしょうか?

それでは、お釈迦様は楽しさ・苦しさについてどのように説かれているのか、一緒に考えていきたいと思います。

開催期日

令和元年10月5日（土）

14:00～15:30

開催内容

1. はじめに（お釈迦様のことばとは）

お釈迦様はその時々で、聞き手に一番伝わるような言葉を説いているため、同じ教えでも全く違った表現や例え話を用いることがあります。そのため、お釈迦様の教えは84,000と比喩されるほど数多く存在します。お釈迦様の入滅後、口伝（如是我聞）で継承されていたそれらの教えは、のちに文字で記されるようになりました。それが経典の始まりと言われています。

それらの経典の中でも一番古いとされているのが、「原始経典（ニカーヤ）」に分類される『ダンマパダ』と『スッタニパータ』という経典になります。どちらも、仏教用語をあまり用いておらず、簡潔な言葉で説かれているため、日常の指針になるような教えもたくさんあります。これらの教えを読み解きながら、お釈迦さまが「楽しさ・苦しさ」についてどのように説かれていたのかを考えるのが本講座の目的でした。

2.『ダンマパダ』第15章

『ダンマパダ』には「楽しみの章」があり、そこには次のような教えが説かれています。

197　恨みをいだいている人々の中で、恨むことなく生きることは実に楽しい。恨みをいだいている人々の中で、恨むことなく、私たちは暮らしていこう。

201　勝利からは恨みが起こる。敗れた人は苦しんで臥す。勝敗を捨ててやすらぎに帰した人は、安らかに臥す。

204　無病は最高の利得であり、知足は最上の宝であり、信頼は最高の友人であり、涅槃は最上の安楽である。

ここでは、私たちには実現することが難しい「楽しみ」が説かれています。これが楽しさだとすると、私たちが日ごろ楽しいと感じているものはいったい何なのでしょうか。

3. 私たちが考える「楽しみ」「満足」とは

私たちが「楽しみ」や「満足」を考えるとき、無意識のうちにでもいかに便利で、いかに快適で、いかに豊かであるか、ということに眼がいっているように思います。つきつめると、思い通りになるかどうかということです。私たちは、思い通りにならないと喜ぶことができません。そして、喜ぶためには、お金や力が必要になってきます。しかし、お釈迦様は釈迦族の王子として、お金や地位、名誉、能力などあらゆるものを持っていたにも関わらず、全てを捨て去って出家しています。お釈迦様は次のように説かれています。

他の人たちが「安楽だ」というものを、聖者たちは「苦しみである」という。他の人たちが「苦しみだ」というものを、聖者たちは「安楽である」という。法は知り難いものであると見よ。無知なる者たちはここで迷うのである。　『スッタニパータ』第3章762

私たちは人生を便利に快適に豊かにすることで楽しくしようとしていますが、実はそのすべてが自分を苦しめているのです。さらにお釈迦様は、人生は「一切皆苦」であると言われます。

4. 一切皆苦の自覚

『スッタニパータ』、『ダンマパダ』には次のようにも説かれています。

人は、はからいからすべてのものに執着する。富に執着し、財に執着し名に執着し、命に執着する。有無、善悪、正邪、すべてのものにとらわれて迷いを重ね苦しみと悩みとを招く。

『マッジマ・ニカーヤ』

人々は「自分のものだ」と執着した物のために苦しむ。なぜなら、自分が所有しているものは常住ではないからである。「それは離れいくものだ」と見て、在家に留まっていてはならない。

『スッタニパータ』第4章805

お釈迦様は、「苦しみ」を生み出すのは「執着」であり、その「執着」を生み出すのは「自分のはからい（都合）」であると説かれます。私たちは自分の都合により、豊かに思い通りに生きたいと思うものですが、むしろ、そう求める心に縛られ、心の奴隷になっているのです。あったらあったで苦しむし、なければなかったで苦しむ、そのことを自覚して、私たち自身の生き方を振り返ることが大切なのではないでしょうか。

5. おわりに（知足は最上の宝）

お釈迦様が「知足は最上の宝」（『ダンマパダ』204偈）と説かれたように、「これでいいのだ」と、比べる必要のない自分を知ることこそが最上の宝であり、仁愛の自覚につながるのだと、私自身もこの講座を通して改めて学ぶことができました。

また、今回の公開講座は、同窓会の講演会も兼ねた開催だったため、本学卒業生の参加が多く、非常に和やかな雰囲気で行うことができました。